

2007年硫黄島航空磁気調査結果*

The Results of Aeromagnetic Survey at Io To in 2007

海上保安庁海洋情報部

Hydrographic and Oceanographic Department of Japan Coast Guard

海上保安庁海洋情報部では、2007年2月に実施した硫黄島の航空磁気測量の結果について報告する。測量は飛行高度約730m、測線は南北に間隔0.25マイルとし、測位はGPS測位とした。

調査結果

今回測量した地磁気異常分布は図1のとおりである。

硫黄島の北に正の異常（最大1343nT）、南に負の異常（最小-1356nT）、振幅は約2700nTの、いわゆる逆帯磁の分布を示す。

硫黄島については、1998年に測量を実施しており、その結果については、2002年1月の噴火予知連に報告している。

1998年の分布（図2）と比較してみると、極値間の振幅で67nT程度の増加はあるものの、硫黄島陸部及び周辺海域の異常分布に関して大きな有意差は見られない。

なお、現在、詳細な解析（3次元の磁化強度解析）を進めている。

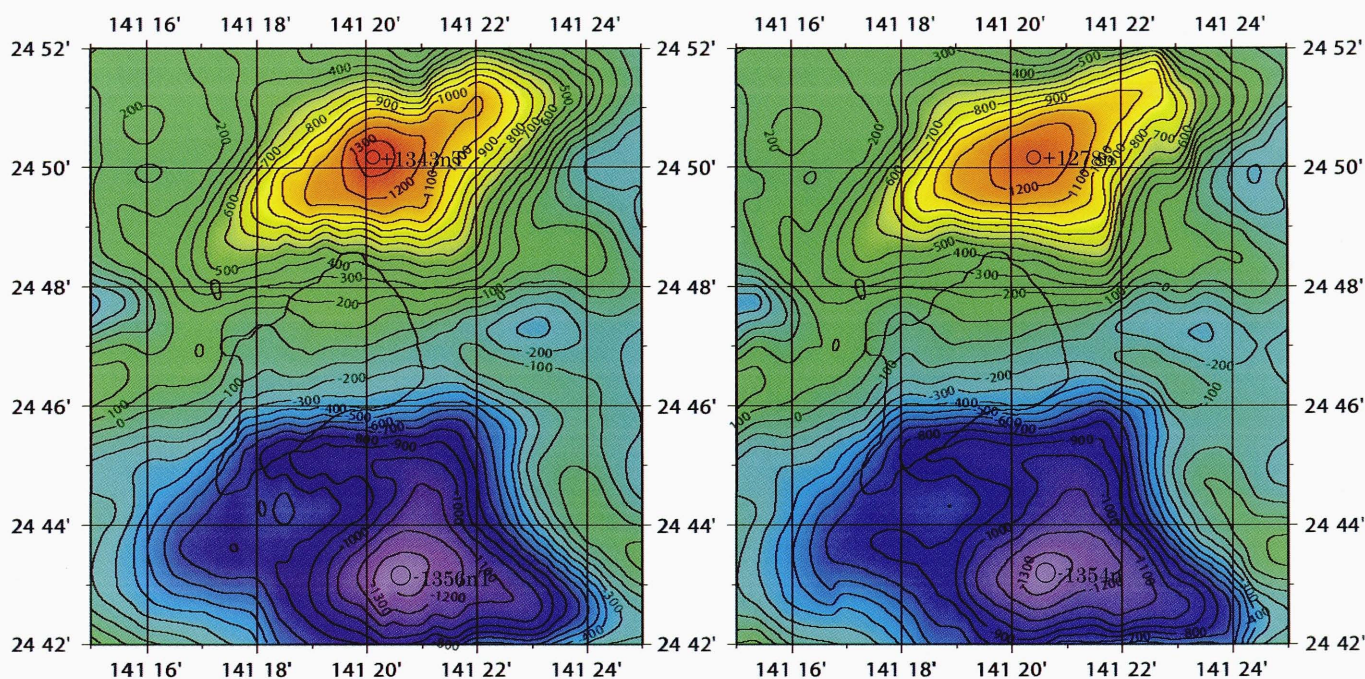


図1 2007年地磁気全磁力異常図

Fig1 Geomagnetic anomaly map in 2007

図2 1998年地磁気全磁力異常図

Fig2 Geomagnetic anomaly map in 1998

* 2007年8月6日受付